

学校における防災教育の展開例について

本章では、第1章P6「各発達段階における防災教育で目指す幼児児童生徒の姿」に準じ、各校種ごとの学校安全計画例、防災教育年間指導計画例、具体的な授業展開例を示している。

目標の設定に当たっては、学校の立地環境や施設設備の状態、地域との関わりや状況や幼児児童生徒等の実態等に応じ、適切に行われることが重要である。また、「発達の段階に応じた防災教育」の目標は、幼稚園・保育所から高等学校までを見据え、知識や技能の習得、意識や行動、態度等について、それぞれの校種の段階による指導が積み重ねられることによって達成されるものとして示されている。例えば、中学校の目標は幼稚園・保育所や小学校の目標が達成された上に設定されているのである。このことから、各学校において目標を設定する際には、児童生徒等が前学校（園）段階や地域・家庭において身に付けている防災に関する態度や知識・技能の程度（レディネス）を確認し、その実態に応じたものにすることが必要である。また、年間計画を作成する際には、教科等の年間指導計画、学区や県・市区町村の防災に関する行事等との調整を図る必要がある。

各学校においては、本章の例を参考に、学校や地域の実情を踏まえた防災教育が展開されることが望まれる。

参考：学校防災のための参考資料
「生きる力」を育む防災教育の展開（文部科学省）

1 幼稚園・保育所

(1) 学校安全計画例	61
(2) 防災教育年間指導計画例	63
(3) 防災教育指導展開例	64

ア 避難訓練（0歳児～5歳児）

地震発生に伴い、乳幼児の一斉避難を想定した避難訓練	64
---------------------------	----

入園から1か月が過ぎ、ようやく保育者や友だちとのつながりができはじめているころ、保育室にいる時間帯に地震（震度5）発生。保育室内に一次避難をし、揺れが収まった後、二次避難場所である園庭に避難する。

イ 避難訓練（0歳児～5歳児）

大地震後の保護者引き渡しを想定した避難訓練	66
-----------------------	----

地震（震度5強）が発生。二次避難後、災害の状況を判断して園長は保護者に引き渡しを決定する。

2 小 学 校

- (1) 学校安全計画例 69
- (2) 防災教育年間指導計画例 71
- (3) 防災教育指導展開例 72

ア 特別活動 学級活動（第4学年）

- 休み時間などに大地震が起こったら 72

避難訓練の事前学習として、大地震発生時に学校内の様々な場所で予想される危険を考え、自分の身を守るためにはどのような行動をとればよいのかについて話し合うことを通して、どのような場面でも安全に避難することができるようにする。

イ 特別活動 学級活動（第6学年）

- 町の中でぐらっときたら 74

地域で実施する防災訓練の事前学習として、大地震が起きたとき町にはどんな危険があるか、またそれを避けるためにはどこに避難すればよいのかについて考えることを通して、安全な避難場所とそこに至るまでの避難経路を知るとともに、災害時に自分として気をつけることを決められるようにする。

3 中 学 校

- (1) 学校安全計画例 77
- (2) 防災教育年間指導計画例 79
- (3) 防災教育指導展開例 80

ア 防災避難訓練

- 特別活動 学校行事 80

避難訓練の事前学習として、外部指導者を講師に招き、地震発生時の適切な行動方法を学ぶ。

イ 防災体験

- 特別活動 学校行事 81

応急処置体験・AED体験・消火体験・煙体験・非常食体験などの災害時を想定した実践的な防災体験学習を行う。

4 高等学校

- (1) 学校安全計画例 83
- (2) 防災教育年間指導計画例 85
- (3) 防災教育指導展開例 86

ア 避難所設置訓練

- 特別活動 学校行事 86

地震等災害により学校が避難所に指定されることを想定し、地域と学校が連携して的確に運営できるよう避難所設置訓練を実施する。

イ 多様な場面を想定した避難行動を考える

- 特別活動 学校行事 88

避難訓練の事後指導として、災害時に自分たちにできる行動を考えさせ、防災意識の向上を図る。

5 特別支援学校

- (1) 学校安全計画例 91
- (2) 防災教育年間指導計画例 93
- (3) 防災教育指導展開例 94

ア 日々の学校生活の中で取り組む防災教育

- 日常生活の指導 朝の会 94

年間を通して指導のねらいが達成できるよう、テーマ（交通安全・体調管理・服装・水分補給・河川氾濫・台風・防寒・除雪・雪害等）を決めて日々の学級活動（朝の会）の中で防災教育を実践する。

イ 地震・津波を想定した総合防災訓練

- 特別活動 学校行事 96

事前学習の内容を踏まえ、地震・津波を想定した総合防災訓練（避難場所への避難行動訓練、保護者への引き渡し訓練、起震車体験、非常食の試食等）を実施する。

- (4) ミニコラム 98

平成△年度学校安全計画例（幼稚園）

○○幼稚園

[illegible]

防災教育年間指導計画例（幼稚園・保育所）

【防災教育で目指す幼児の姿】

- 日常生活の場面で、安全な生活習慣や態度を身に付けることができる。
- 災害時には、教職員や保護者の指示に従い行動できる。
- 危険な状態を見付けた時には、近くの大人に伝えることができる。

目指す子どもの姿にせまる環境の構成・保育者の関わり等		
遊びの中で	【普段の遊びの中での指導】 ○情緒の安定を図るとともに、子どもの行動や発達過程を把握しながら、安心して過ごすことができるような関わりをする。 ○人の話をしっかり聞き、落ち着いて行動することができるように、子どもと保育者との信頼関係の構築を図る。 ○子どもにとって、安全・安心な保育環境であるかについて、常に保育者同士連携しながら点検したり見直ししたりしながら改善を図る。	【外遊び等における指導】 ○放送やホイッスル等で避難指示があった場合は、近くにいる保育者のそばに集まるなどの約束を徹底させる。 ○気を付けながら遊ぶ場所、危険な場所等について、子どもとともに定期的に園外環境の見直しをしながら、事故等の未然防止につなげる。 ○状況に応じて自分で危険を回避することができるように、日常の遊びの中で十分に体を動かすことが可能となる機会や時間の保障する。
	【朝・帰りの会等における指導】 ○見通しをもって生活し、安心して過ごすことができるようにするために、朝の会で一日の予定を伝えたり帰りの会で今日の遊びを振り返ったりする。	【週・月・期における指導】 ○週初めや月の安全日等に定期的に園内外の安全点検を実施し、課題・問題点については、解決に向けて迅速に対応するとともに、職員間で情報共有する。 ○毎月実施される避難訓練では、時間帯・災害の種類・保育形態等の違いを想定しながら実施し、改善点を次回に生かしていく。
避難訓練実施計画		
4月～7月	8月～12月	1月～3月
【想定災害】 地震・津波・火災 【避難場所】 一次避難（保育室） 二次避難（園庭） 三次避難（近隣コミュニティセンター） 【地域との連携】 ○消防署との連携（避難訓練後の指導助言、2階からの避難の仕方等の体験） ○保護者との連携（引き渡しカードの記入依頼）	【想定災害】 地震・津波・火災・大雨 【避難場所】 一次避難（保育室） 二次避難（園庭） 三次避難（近隣コミュニティセンター） 【地域との連携】 ○保護者との連携（地震等に伴う保護者への引き渡し訓練の実施）	【想定災害】 地震・津波・雪害・火災 【避難場所】 一次避難（保育室） 二次避難（園庭） 三次避難（近隣コミュニティセンター） 【地域との連携】 ○地域住民と協力した道路の除雪、避難経路の確保
予定回数 4回	予定回数 5回	予定回数 3回

幼稚園・保育所展開例 1

地震発生に伴い、乳幼児の一斉避難を想定した避難訓練（0歳児～5歳児）

1 意 義

乳幼児を預かる幼稚園・保育所では、家庭を離れて集団生活する子どもたちにとって安全・安心な環境を整えることはもちろんであるが、緊急時に起こりうる様々な危険を想定し、子どもの命を守るため、園の課題を明確にし、避難訓練を積み重ねることが重要である。

2 ね ら い

〈子ども〉

- (1) 安全な避難の仕方が分かり、保育者の指示に従い、行動する。
- (2) 命を守るために自分ができることやしなければならないことは何かを考え、行動する。

〈保育者〉

- (1) 避難時に求められる保育者の役割を理解し、状況に応じた適切な判断をし行動する。
- (2) 各年齢の発達に応じて子どもたちに不安を与えないように声をかけ、落ち着いた避難誘導をする。

3 展 開

入園から1か月が過ぎ、ようやく保育者や友だちとのつながりができはじめているころ、保育室にいる時間帯に地震（震度5）発生。保育室内に一次避難をし、揺れが収まった後、二次避難場所である園庭に避難する訓練である。

時 間	未満児（0歳児～2歳児）について		以上児（3歳児～5歳児）について	
	保育者の動き	子どもの動き	保育者の動き	子どもの動き
10:00	事前に避難訓練の内容や非常ベルを鳴らすことを伝えておく。 ・おやつが終わり遊びの環境を整える。 ・おやつの後片付けをする。			
		・好きなおもちゃで遊んだり、保育者と絵本を見たりしている。 ・おやつの後片付けをしている子どももいる。	・保育室で朝の連絡、出欠の確認、今日の予定等を話す。	・今日の予定等について保育者の話を聞く。 ・保育者や仲間と一緒に安心して過ごす。
10:10	地 震 発 生 非常ベルを鳴らし、放送で地震発生と保育室の安全な場所に集まることを指示			
	・保育者は、子どもの安全を確保しながら、保育室や廊下の戸や窓を開け避難口を確保する。 ・不安にならないように穏やかに声をかけ、できるだけ落下物から体を守る方策をとる。（頭に布団をかぶせる等）	・保育者の側に集まる。 ・保育者の声や様子で緊急時であること知る。	・地震発生の緊急時であることを伝え、身を守る姿勢をとることを指示する。 ・子どもの安全を確保しながら、保育室や廊下の戸や窓を開け、避難経路の確保をする。	・保育者の声に気づき、指示や非常ベル・放送を聞く。 ・保育者の指示を聞き机の下にもぐるなどして、自分の身を守る。

時 間	未満児（0歳児～2歳児）について		以上児（3歳児～5歳児）について	
	保育者の動き	子どもの動き	保育者の動き	子どもの動き
10:15	・連携して担任のいる安全な場所（保育室壁際）に集める。 ・状況に応じて、おんぶやだっこをする。（おんぶひも、避難車等の準備）	・泣いたり不安そうにしたりしている子どもは、だっこをして移動する。	・机が出ているときは、その下へ身を隠すよう指示する。 ・不安にならないような言葉がけをする。	
	揺れが収まったので、二次避難場所（園庭）へ移動指示の放送			
	・子どもたちに声をかけながら、速やかに園庭への避難を開始する。 ・子どもの発達を考慮し、だっこやおんぶ、靴を履く、ベビーカーを使う等必要に応じた避難方法をとる。 ・保育者の連携の下、事前に確認した避難手順・方法・役割分担等により、速やかに避難する。 ・非常持出袋を持参する。	・保育者の言葉や話をしっかり聞く。 ・おんぶやだっこをしてもらいながら避難する。 ・自分でできること（靴を履く等）をやってみる。	・二次避難の放送を聞き、子どもたちに不安のないように避難方法や経路等を話す。 ・クラスの人数を確認しつつ避難体制をとる。 ・履物を履いているか確認をし、そのまま避難する。 ・合言葉（「お・か・し・も」等）を意識しながら避難する。 ・同時に移動している他のクラスにも配慮する。 ・非常持出袋を持参する。	・落ち着いて放送と保育者の話を聞く。 ・指示されたことを、行動に移す。 ・移動時を考えて内履きの確認を自分でする。 ・合言葉（「お・か・し・も」等）を意識しながら避難する。 ・園庭の安全な場所に集まり、素早く並ぶ。 ・状況に応じて、保育者の指示に従う。
10:23	二次避難場所へ到着			
10:30	・安全な場所（1か所）にクラスごとに整列し、保育者が人数・健康確認をする。 ・確認ができ次第、園長（副園長・主任）へ報告をする。 ・他の職員は、園内に園児が残っていないかを確認をする。			

5 評 価

〈子ども〉

- (1) 保育者と一緒に落ち着いて非常ベルや放送等による指示を聞くことができたか。
- (2) 日ごろから言われている合言葉（「お・か・し・も」等）の意味が分かり、保育者の指示を聞いて行動することができたか。

〈保育者〉

- (1) 事前の打ち合わせのとおり、的確に自分の役割を果たすことができたか。
- (2) 発達年齢に合わせた言葉をかけ、状況に応じた素早い避難誘導ができたか。



幼稚園・保育所展開例 2

大地震後の保護者引き渡しを想定した避難訓練（0歳児～5歳児）

1 意 義

大地震・火災等が発生した際には、乳幼児の安全を確保することはもちろんのこと、さらには命を守ることを第一として、家庭や地域と連携した引き渡し訓練をすることが重要である。

2 ね ら い

〈子ども〉

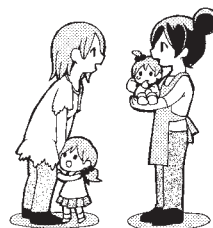
- (1) 緊急時であることが分かり、担任や他の教職員と避難し、更に安全な場所で保護者の引き渡しを待つ。

〈保育者〉

- (1) 乳幼児の安全確保・誘導の仕方などの役割を各自が理解・判断し、状況に応じ連携して対応する。
- (2) 長時間にわたる避難・待機の中、乳幼児の心身の安定を図り、安全・安心の確保に努める。

〈保護者〉

- (1) 自分の身の安全を守りながら、わが子を確実に引き取る方法を理解し、落ち着いて引き渡し訓練に参加する。



3 展 開

地震（震度5強）が発生。二次避難後、災害の状況を判断して園長は保護者に引き渡しを決定する。

時 間	未満児（0歳児～2歳児）について		以上児（3歳児～5歳児）について	
	保育者の動き	子どもの動き	保育者の動き	子どもの動き
11:00	二次避難場所において、園長は、災害の状況から保護者への引き渡しを決定する。 園長は、人数・けが人・不明者等の確認をするよう、保育者に指示するとともに、教職員に災害状況を説明し、保護者に対し園児の引き渡しをすることを伝える。			
11:05	保護者にはメール配信・緊急電話連絡網等で災害時の園児の引き渡しを伝えるとともに、来園の際は、「引き渡しカード」の持参をお願いする。 【引き渡しカードの項目(例)】 ☐園児名 ☐性別 ☐生年月日 ☐保護者氏名 ☐園児の兄弟姉妹氏名 ☐住所 ☐電話番号（自宅・携帯） ☐保護者・緊急時連絡先及び引受者氏名 ☐かかりつけ医療機関等（内科・外科・眼科・歯科等）			
	・教職員には、目印となる腕章・たすきを付けるように指示する。 ・園長は、担任以外の教職員に周囲のサポートを指示する。 ①ミルク・おむつの準備 ②水分補給と補食の準備 ③安心のための小さなおもちゃを準備	・二次避難場所から、安全なホール(壁側)に履物のまま移動する。(落下物に注意) ・安心した周囲の保育者に囲まれて、保護者の迎えを待つ。	・子どもたちが不安にならないように、この後の動き(引き渡し)について話す。 ・園長は、担任以外の教職員に周囲のサポートを指示する。 ①特別支援児等のサポート ②保護者の誘導 ③周囲の情報収集	・担任の話を落ち着いて聞く。 ・保育者や友達や仲間と安心した中で保護者を待つ。

時 間	未満児（0歳児～2歳児）について		以上児（3歳児～5歳児）について	
	保育者の動き	子どもの動き	保育者の動き	子どもの動き
11：20 随時	④季節に応じた寝具等の準備		④門扉で安全確認・不審者の侵入を防ぐ。	
	〈準備品（例）〉 ○安全を確認して次のものを準備する。 ☐ 園児名簿 ☐ 緊急連絡網 ☐ 引き渡しカード控 ☐ 引き渡し確認用紙 ☐ 拡声器 ☐ 机 ☐ 筆記用具 ☐ 携帯電話 ☐ ラジオ ☐ ホイッスル ☐ 懐中電灯 ☐ その他			
	保育者は、互いに連携を取り合いながら、子どもたちが安心して行動（待機）できるように言葉をかけたり関わったりする。			
	保護者への引き渡し開始			
	引き渡しカードによる照合 保護者が持参した引き渡しカードと園保管の引き渡しカードの内容を照合し、保護者又は代理人であることを確認する。			
	〈注意事項〉 ・園長は、全体を掌握できる位置で安全を確認する。 ・迎えに来た保護者を1か所に集める。（園児数が多い園では、クラス別に整列） ・動揺のあまり、あわてて勝手な行動をとる保護者には、落ち着いた行動をとるように配慮の声をかけ協力を願う。 ・教職員の連携の下、迅速な保護者対応ができるよう、指示を的確に伝える。 ・引き渡しカードを確認し子どもの名前を呼びながら、一人ずつ確実に保護者へ引き渡す。 ・待っている間、子どもたちには、合言葉（「お・か・し・も」等）を繰り返し伝え、日常の保育と同じように落ち着いた対応をする。 ・待ち時間が長くなった時には、残された子どもたちの心のケアにも配慮する。（水分・おやつ等の確保も含めて） ・引き渡し終了がいつ頃になるかの見通しをもつ。			
	園長は引き渡し訓練の終了を告げる。			

5 評 価

〈子ども〉

- (1) 緊急時であることが分かり、落ち着いて保育者と避難したり保護者が来園するまで待機したりすることができたか。

〈保育者〉

- (1) 子どもの安全の確保・誘導・待機等の流れの中で一人一人が安心できる対応をすることができたか。
- (2) 各自が引き渡し訓練の流れを理解し、場の状況に応じた役割を果たすことができたか。

〈保護者〉

- (1) 園からの情報を受けて、自分自身の安全を確保しつつ、子どもを確実に引き取ることができたか。

防災教育年間指導計画例（小学校）

【防災教育で目指す児童の姿】

- 〈低学年〉○安全な行動の大切さが分かり、安全のためのきまり、約束を守ること、身の回りの危険に気付くことができる。
○危険な状態を見付けた場合や災害時には、近くの人に速やかに連絡し、指示に従うなどの適切な行動ができる。
- 〈中学年〉○災害安全に関する様々な危険の原因や事故の防止について理解し、危険に気付き、自ら安全な行動をとることができる。
- 〈高学年〉○中学年までに学習した内容を一層深め、様々な場面で発生する危険を予測し安全な行動ができる。
○自分の安全だけでなく、家族などの身近な人々の安全にも気配りができる。
○簡単な応急手当ができる。

4月～7月			予定 時数	実施 時数	8月～12月		予定 時数	実施 時数	1月～3月		予定 時数	実施 時数
教科名・単元名・指導内容等					教科名・単元名・指導内容等				教科名・単元名・指導内容等			
教科 指導 計画	1年				生活　みんないっしょに		12					
	2年	生活 ときどきわくわく　まちたんけん	9		生活 みんなで　行こうよ　つかおうよ		6		生活 もっとなかよしまちたんけん		12	
	3年	総合 オリジナル防災マップをつくろう	12									
	4年	社会 安全な暮らしとまちづくり	12						社会 昔から今へと続くまちづくり		15	
	5年	家庭　快適な衣服と住まい 総合　わたしたちの地域の自然災害	11 17		理科　天気の変化 理科　流水のはたらき 社会　くらしを支える情報		9 11 11		社会　環境を守る人々 体育　けがの防止		11 4	
	6年	道徳 社会的役割の自覚と責任	1		総合 わたしたちのくらしと火山		14		社会　暮らしの中の政治		13	
学級 指導 計画	1年	火事になったら(1)	1		地しんがおこったらどうする の(1)		1					
	2年	火事になったら(2)	1		地しんがおこったらどうする の(2)		1					
	3年	どうする？大雨だ、強風だ、 かみなりだ(1)	1		休み時間などに大地震がおき たら(1)		1					
	4年	どうする？大雨だ、強風だ、 かみなりだ(2)	1		休み時間などに大地震がおき たら(2)		1					
	5年				町の中でぐらっときたら(1)		1		いざという時の備えは(1)		1	
	6年				町の中でぐらっときたら(2)		1		いざという時の備えは(2)		1	
全体 指導等	○避難訓練 （火災1回、地震・津波1回 いずれも授業中） ○災害時の引き渡し訓練　1回				○避難訓練 （火災1回、地震・津波1回 いずれも授業時間外） ○地域の防災訓練への参加　1回				○避難訓練 （地震・火災・津波　授業時間外）			

	4月～7月		8月～12月		1月～3月	
	【想定災害】 地震 ・ 津波 ・土砂災害・河川氾濫 雪害・ 火災 その他（引き渡し訓練）		【想定災害】 地震 ・ 津波 ・土砂災害・河川氾濫 雪害・ 火災 その他（ ）		【想定災害】 地震 ・ 津波 ・土砂災害・河川氾濫 雪害・ 火災 その他（ ）	
避難 訓練 実施 計画	【避難場所】 一次避難（グラウンド） 二次避難（裏 山）		【避難場所】 一次避難（グラウンド） 二次避難（裏 山）		【避難場所】 一次避難（グラウンド） 二次避難（裏 山）	
	【地域との連携】 ○心肺蘇生法（AED）研修（PTA・地域住民合同）		【地域との連携】 ○地域の防災訓練への参加		【地域との連携】 ○阪神・淡路大震災の想起と防災の啓発活動（地域パトロール）	
	予定回数 3回 実施回数 回		予定回数 3回 実施回数 回		予定回数 1回 実施回数 回	

小学校展開例 1

休み時間などに大地震が起こったら(2)

1 教科名等

特別活動 学級活動（第4学年）

【1 学級活動 (2) 日常の生活や学習への適応及び健康安全

カ 心身ともに健康で安全な生活態度の形成】

2 ね ら い

大地震発生時に学校内の様々な場所で予想される危険を考え、自分の身を守るためにはどのような行動をとればよいかを話し合うことを通して、どのような場面でも安全に避難することができるようにする。

3 指導計画

○時間 展開例 1 / 1

(1) 事前指導

地震が起きたときの基本的な身の守り方や避難場所及び避難経路について確認する。

(帰りの会等)

(2) 本時の指導 (1 時間)

(3) 事後指導

学校行事 避難訓練(地震)

休み時間などに地震が起きたとき、素早く安全に行動することができる。

4 展 開

学習内容・活動 ◎主な発問等	教 職 員 の 支 援 等	資 料
1 休み時間に大地震が起きたとき、安全に避難するために注意することを確認する。 ◎休み時間に地震が起こったときの避難の仕方についてまとめよう。 ◎安全に避難するために大切なことはどんなことだったでしょうか。	○「休み時間などに地震が起こったら(1)」での学習を想起させ、ワークシートに整理させる。 ①廊下や階段にいる時 ②トイレにいる時 ③運動場や中庭にいる時 ④図書館にいる時 ○「落ちてこない・倒れてこない・移動してこない」場所に避難することを確認する。	学校防災のための参考資料「生きる力」をはぐくむ防災教育の展開(文部科学省)小学校展開例11参照 場所ごとの写真やワークシート

学習内容・活動 ◎主な発問等	教 職 員 の 支 援 等	資 料
2 清掃時間中に大地震が起きたとき、各清掃区域にはどんな危険があるのか考える。 ◎それぞれの清掃場所にはどんな危険があるでしょうか。 ・理科室 ・家庭科室 ・体育館 ・パソコンルーム ・音楽室 ・図工室 など 3 それぞれの場所で自分の身を守るには、どのように行動したらよいか話し合う。 ◎それぞれの清掃場所で頭や体を守るためにはどうしたらよいでしょうか。 4 安全に避難するためにはどうしたらよいか確認する。 ◎安全に避難するために大切なことは何でしょうか。 5 学習して分かったことや特に自分として気を付けることをワークシートにまとめる。	○各清掃区域ごとに教室の様子が違うことに着目させる。 ○それぞれの場所ごとに考えやすいように、場所ごとの写真やワークシートを準備し考えを整理しやすいようにする。 ○頭や体を守るためにはどうしたらよいか、資料を見て考える。 ○「落ちてこない・倒れてこない・移動してこない」場所に避難することを確認する。 ○揺れが落ち着いたら津波を想定した避難場所に避難することを確認する。	場所ごとの写真やワークシート

5 評 価

- (1) 大地震の恐ろしさを知り、自分の命を守るためにどのような行動をとったらよいのか理解できたか。
- (2) 大地震が発生したときに特に自分としてどう行動したらよいかを決めることができたか。



小学校展開例 2

町の中でぐらっときたら(2)

1 教科名等

特別活動 学級活動（第6学年）

【1学級活動 (2) 日常の生活や学習への適応及び健康安全

カ 心身ともに健康で安全な生活態度の形成】

2 ね ら い

大地震が起きたとき町にはどんな危険があるか、またそれを避けるためにはどこに避難すればよいかを考えることを通して、安全な避難場所とそこに至るまでの避難経路を知るとともに、災害時に自分として気を付けることを決められるようにする。

3 指導計画

1 時間 展開例 1 / 1

(1) 事前指導

地震が起きたときの町内ごとの避難場所について確認する。(子ども会等)

(2) 本時の指導 (1 時間)

(3) 事後指導

地域の防災訓練への参加

町の中で地震が起きたとき、素早く安全に行動することができる。

4 展 開

学習内容・活動 ◎主な発問等	教職員の支援等	資 料
1 登下校中に地震が起きたとき、どのようにして危険を回避するかについて確認する。 ◎登下校中に地震にあったらどうしたらよいでしょうか。	○「町の中でぐらっときたら(1)」の学習を想起させ、身の守り方と通学路ごとの避難場所について確認する。	学校防災のための参考資料「生きる力」をはぐくむ防災教育の展開(文部科学省) 小学校展開例14参照
2 町の中にいるとき大地震が起これたらどこに避難すればよいか考える。 ◎町の中にいるときに大地震が起これたらどこに避難すればよいでしょうか。	○学区の中の避難場所を示して、どんな場所でどんな危険があるか予想させる。	学校周辺の通学路で住宅地・商店街・海沿い・川沿い等の画像 学区内の避難場所を示した地図

学習内容・活動 ◎主な発問等	教職員の支援等	資 料
3 学区のどんな場所においても安全に避難できるように、学区にある各避難場所ごとにその範囲を明確にする。 ◎町内ごとにそれぞれの避難場所に行く範囲を色分けしましょう。 4 町内ごとの地図を見合いながら、避難経路の安全性について検討する。 ◎それぞれの避難場所まで安全に行けるか考えましょう。 5 避難するときに注意することについてまとめる。 ◎キーワードをもとにして避難するときに注意することについてまとめましょう。 6 学習して分かったことや自分として特に意識したい身の守り方を決めてワークシートに記入する。	○各町内でどの場所にいたら、どの避難場所に逃げるか考えてそれぞれの避難場所に行く範囲を色分けする。 ○理由を明確にして安全性を検討するように意識させる。 ○落ちてこない、倒れてこない、ものが移動してこない場所、海や川の近く等をキーワードとしてまとめる。	町内ごとの地図 ワークシート

5 評 価

- (1) 学区の地域の中で大地震が発生したときの避難場所と避難経路を知り、その理由を理解することができたか。
- (2) 学区の地域の中で大地震が発生したときの状況をイメージし、それぞれの場所によって、自分として特に意識したい身の守り方を決めることができたか。



平成△年度学校安全計画例（中学校） ※学級活動の欄 ◎…1単位時間程度の指導 ●…短い時間の指導 ○○中学校

項目		月												
月の重点		4	5	6	7・8	9	10	11	12	1	2	3		
道	安全な登下校をしよう	日本海中部地震を想起し、防災意識を高揚せよう	梅雨期を安全に過ごそう	健康と安全について気をつけよう	災害に備えた生活をしよう	交通安全法を理解しよう	危険を予測し、安全な生活をしよう	自ら健康を維持していこう	事故災害から身を守り適切な行動をしよう	事故の原因について学ぼう	安全な生活ができるようにしよう			
	徳	・生命の尊さ	・集団の意義	・自主自立	・法の遵守	・奉仕	・友情の尊さ	・役割と責任	・郷土愛	・人間愛	・生命の尊重	・感謝・報恩		
	語													
	会	・世界各地の人々の生活と環境（自然災害と防災への努力） ・国際社会と人類の課題（私たちと国際社会の諸問題）												
	理	・気象とその変化（気象観測を通じた現象のしくみ）												
安	保健体育													
	技術・家庭													
	・「災害と街づくり」、「学区安全マップづくり」、「ボランティア活動」													
	学級活動	第1学年	●中学生になって ●通学路の確認 ●部活動の安全 ●自分でできる安全点検 ◎犯罪被害の防止や通報の仕方	◎防災意識の高揚 ●災害の知識	●校内での事故と安全な生活 ◎水泳、水の事故と安全	●落着きの危険や風水害 ●自分の健康チェック ◎夏休みの生活設計と安全（防犯）	●社会の一員としての自覚と責任 ◎ボランティア活動の意義の理解	●文化祭の準備と安全 ◎交通安全の意識と安全	●自分の健康チェック（持久走大会と安全）	●冬休みの生活設計と安全 ●火気の注意 ◎災害への備えと協力（地域の一員として）	●防災意識の高揚（阪神・淡路大震災、東日本大震災の想起） ●降雪時の安全	●施設の安全な利用 ●けがの発生状況とその防止	●1年間の反省 ●3年生を送る会での安全	
		第2学年	●通学路の確認 ●自分でできる安全点検 ◎犯罪被害の防止や通報の仕方	◎防災意識の高揚 ●危険予測	◎水泳、水の事故と安全	●自分の健康チェック ◎夏休みの生活設計と安全（防犯） ●中体連大会と安全	●社会の一員としての自覚と責任 ◎ボランティア活動の知識技能	●文化祭の準備と安全 ◎部活動の安全とリーダーの役割	●自分の健康チェック（持久走大会と安全）	●冬休みの生活設計と安全 ●火気の注意 ◎災害への備えと協力（地域の一員として）	●防災意識の高揚（阪神・淡路大震災、東日本大震災の想起） ●降雪時の安全	●けがの発生状況とその防止	●1年間の反省 ●3年生を送る会での安全	
第3学年		●登下校の安全 ●自分でできる安全点検 ◎犯罪被害の防止や通報の仕方	◎防災意識の高揚 ●社会貢献	◎水泳、水の事故と安全 ●修学旅行と安全	●自分の健康チェック ◎夏休みの生活設計と安全（防犯） ●中体連大会と安全	●社会の一員としての自覚と責任 ◎ボランティア活動の企画・実行	◎交通事故の原因と事故の特性	●自分の健康チェック（持久走大会と安全）	●冬休みの生活設計と安全 ●火気の注意 ◎災害への備えと協力（地域の一員として）	●防災意識の高揚（阪神・淡路大震災、東日本大震災の想起） ●降雪時の安全	●けがの発生状況とその防止	●1年間の反省 ●学校、教室環境の整備修繕（修仕活動）		
安全指導	生徒会活動	・部活動紹介	・校内安全点検活動	・生徒会総会 ・中体連壮行会	・球技大会		・文化祭	・駅伝大会壮行会		・ボランティア活動などの社会参加		・卒業式		
	主な学校行事等	・入学式 ・健康診断 ・学校説明会 ・交通安全運動	・防災避難訓練（地震） ・新体力テスト	・救急救命講習会 ・修学旅行		・防災避難訓練（火災） ・防災体験	・文化祭	・持久走大会		・防災講話会 ・防災避難訓練（地震・火災・津波）				
	部活動	・活動ガイドダンス ・練習の進め方指導	・部活動保護者会	・熱中症予防指導			・文化祭の準備と安全 ・文化祭の安全な過ごし方	・携帯電話、パソコンの安全な使い方	・冬季に多い傷害予防指導					
安全管理	対人管理	・通学方法の決定 ・安全のまきまりの設定	・身体への安全及びけがの予防について	・校舎内の安全な過ごし方 ・プールにおける安全管理について	・自分のできること ・救急体験の見直し ・夏季休業中の部活動での安全と対応	・身体への安全及びけがの予防について	・文化祭の準備と安全 ・文化祭の安全な過ごし方	・携帯電話、パソコンの安全な使い方	・冬季に多い傷害予防指導	・避難時の約束について	・自転車の正しい乗り方	・1年間の人的管理の評価と反省		
	対物管理	・通学路の確認 ・安全点検年間計画の確認 （点検方法等研修含む）	・運動場など校舎外の整備	・学校環境の安全点検及び整備（階段・廊下・プール）	・夏季休業前や夏季休業中の校舎内外の点検	・諸設備の点検及び整備	・学校環境の安全点検及び整備（体育館）	・避難経路の確認 ・防火設備、用具の点検整備	・避難所として開放する場所の点検	・学校環境の安全点検及び通学路の整備（備品）	・学校環境の安全点検及び備品の整備（備品）	・1年間の学校環境安全点検の評価と反省		
	学校安全に関する組織活動（研修含む）		・県民防災の日（26日） ・日本海中部地震（26日）の想起と防災の啓発活動 ・心肺蘇生法（AED）研修 ・安全行動把握、情報交換	・地域学校安全委員会（学校保健委員会） ・校内の点検	・防災の日（1日） ・防災に関する研修（避難訓練） ・秋の交通安全運動期間の啓発活動	・地域メトロール ・避難所開設の際の話し合い ・防災に関する研修（マニユールの確認等）	・地域学校安全委員会（学校保健委員会） ・校内の点検	・通学路点検 ・自転車に関する研修（指導方法）	・地域防災訓練の啓発 ・年次開始の交通安全運動の啓発	・阪神・淡路大震災（17日）の想起と防災の啓発活動 ・応急手当と緊急時校内連絡体制	・東日本大震災（11日）の想起と防災の啓発活動 ・校内事故等発生状況と安全措置に関する研修			

防災教育年間指導計画例（中学校）

【防災教育で目指す生徒の姿】

- 小学校までに学習した内容をさらに深め、安全な行動ができる。
- 応急手当の技能の習得や、防災への日常の備え、的確な避難行動ができる。
- 学校、地域の大切さについても理解を深め、参加できる。

		4 月～7 月	予定 時数	実施 時数	8 月～12 月	予定 時数	実施 時数	1 月～3 月	予定 時数	実施 時数
		教科名・単元名・指導内容等			教科名・単元名・指導内容等			教科名・単元名・指導内容等		
教科 指導 計画	1 年	社会科 「世界各地の人々の生活と環境」 ・自然災害と防災への努力	1		国語科 「書くこと」 ・日常生活の課題についての まとめ	5		理科 「大地の成り立ちと変化」 ・地震の伝わり方と地球内部 の動き	5	
	2 年	理科 「気象と変化」 ・気象観測を通じた現象のしくみ	3		保健体育科 「傷害の防止」 ・自然災害による傷害の防止	2		社会科 「世界と比べた日本の地域的特色」 ・自然災害と防災の考察	1	
	3 年	社会科 「国際社会と人類の課題」 ・私たちと国際社会の諸問題	1		技術・家庭科 「衣生活・住生活と自立」 ・安全管理と安全な住まい方 の工夫	2		理科 「自然と人間」 ・自然と人間のかかわり方 についての考察	5	
学 級 指 導 計 画	1 年	「防災意識の高揚」 ・日本海中部地震の想起 「災害の知識」 ・災害発生メカニズムの理解	1		「社会の一員としての自覚と責任」 ・ボランティア活動の意義の 理解	1		「防災意識の高揚」 ・阪神・淡路大震災の想起 ・東日本大震災の想起 「適応と成長及び健康安全」 ・自然災害時に対する心構え	1	
	2 年	「防災意識の高揚」 ・日本海中部地震の想起 「危険予測」 ・被害の軽減、災害後への備え	1		「社会の一員としての自覚と責任」 ・ボランティア活動体験から の知識・技能の習得	1		「防災意識の高揚」 ・阪神・淡路大震災の想起 ・東日本大震災の想起 「適応と成長及び健康安全」 ・自然災害時の安全確認	1	
	3 年	「防災意識の高揚」 ・日本海中部地震の想起 「社会貢献」 ・地域の防災や災害時の主体 的な活動への参加	1		「社会の一員としての自覚と責任」 ・ボランティア活動の企画・ 実行	1		「防災意識の高揚」 ・阪神・淡路大震災の想起 ・東日本大震災の想起 「適応と成長及び健康安全」 ・自然災害への備えと協力	1	
全 体 指 導 計 画	全 学 年	「防災避難訓練（地震）」 ・避難時の心構え ・避難経路の確認 ・災害時の対応	3		「防災体験」 ・応急処置体験 ・AED体験 ・消火体験 ・煙体験 「防災避難訓練（火災）」 ・避難時の心構え ・避難経路の確認 ・災害時の対応	4		「防災講話会」 ・防災組織の再確認 ・防災力の向上 ・自助、共助意識の向上 「防災避難訓練 （地震・火災・津波）」 ・避難時の心構え ・避難経路の確認 ・災害時の対応	2	

避難 訓練 実 施 計 画	4 月～7 月	8 月～12 月	1 月～3 月
	【想定災害】 地震・津波・土砂災害・河川氾濫 雪害・火災 その他（ ）	【想定災害】 地震・津波・土砂災害・河川氾濫 雪害・火災 その他（ ）	【想定災害】 地震・津波・土砂災害・河川氾濫 雪害・火災 その他（ ）
	【避難場所】 一次避難（グラウンド） 二次避難（体育館）	【避難場所】 一次避難（グラウンド） 二次避難（ ）	【避難場所】 一次避難（グラウンド） 二次避難（裏 山）
	【地域との連携】 ○避難者として地域住民に参加を要請 ○日本海中部地震（5月26日）の想 起と防災の啓発活動	【地域との連携】 ○消防署員による指導	【地域との連携】 ○生徒・保護者・教職員・地域住民 を対象に「防災講話会」を開催
	予定回数 1 回 実施回数 回	予定回数 1 回 実施回数 回	予定回数 1 回 実施回数 回

中学校展開例 1

防 災 避 難 訓 練

1 教科名等

特別活動 学校行事

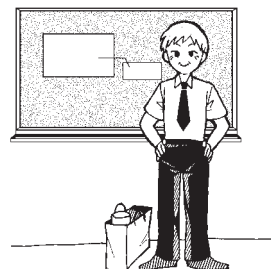
2 ね ら い

- (1) 地震と津波を想定し、安全確保の適切な行動方法を身に付ける。
- (2) 避難の際の機敏な行動力と適切な判断力を養う。

3 指導計画

3 時間 展開例 1 / 3

- (1) 地震発生時の適切な行動方法を学ぶ。(事前学習) 1 時間
- (2) 安全かつ迅速に避難できる。(避難訓練) 1 時間
- (3) 避難の様子を振り返る。(事後学習) 1 時間



4 展 開

学習内容・活動	教職員の支援等	資 料
【全校集会】 ○テーマ 「地震が起きたら、あなたはど うする」 1 県防災担当者からの指導 ①地震への備え ・自助 (自分の身を自分で守る努力) ・共助 (隣近所の人との助け合い) ・公助 (市や県、警察、消防、自衛 隊等による助け) ②地震発生時の対応 ③過去の事例 2 生徒感想発表 3 校長指導講評	○テーマを意識させて集会に臨 ませる。 ○実際の災害時を想起させる。 ○中学生として地震時には責任 を負うことを意識させる。 ○地域や家庭で自分ができると を再確認させ、防災への関 心を高めさせる。 ○次時の避難訓練に向けての心 構えを確認する。	・プレゼンテーション ・災害時の写真や映像

5 評 価

- (1) 災害時における意識を高め、積極的に防災避難訓練に参加することができたか。
- (2) 災害後における危険を的確に判断し、安全かつ迅速に避難することができたか。

6 そ の 他

- (1) 「学校防災マニュアル(地震・津波災害)作成の手引き」参照
- (2) 秋田県地域防災計画参照

中学校展開例 2

防 災 体 験

1 教科名等

特別活動 学校行事

2 ね ら い

- (1) 生徒の防災に対する知識や意識を深める。
- (2) 災害発生時、自分の命を守り、他や地域に貢献できるようにする。

3 指導計画

3時間 展開例 2～3／3

- (1) 災害後における危険について考える。(事前学習) 1時間
- (2) 災害時を想定した実践的な防災体験を行う。(防災体験) 2時間

4 展 開

学 習 内 容 ・ 活 動	教 職 員 の 支 援 等	資 料 ・ 器 具
【全校集会】 ○テーマ 「災害発生時の対応」 1 防災体験 ・応急処置体験 ・AED体験 ・消火体験 ・煙体験 ・非常食体験 2 校長指導講評 3 活動の振り返り	○緊急時を意識させ、真剣に取り組ませる。 ○事前にグループを決め、スムーズに体験ができるよう配慮する。 ○地域や家庭で自分ができることを再確認させ、防災への関心を高めさせる。 ○防災体験の様子を振り返らせ、日頃からの災害への備えの大切さを意識させる。	・三角巾、ガーゼ、止血帯等 ・AED ・消火器 ・非常食 ・スモークマシン 

5 評 価

- (1) 災害時における意識を高め、積極的に防災体験に参加することができたか。
- (2) 災害後における危険を的確に判断し、安全かつ迅速に行動することができたか。

6 そ の 他

- (1) 「秋田県防災センターの案内」参照
- (2) 「秋田市防災コーナー」参照



平成△年度学校安全計画例（高等学校） ※ホームルーム活動の欄 ◎…1単位時間程度の指導 ●…短い時間の指導 ○○高等学校

項 目		4	5	6	7・8	9	10	11	12	1	2	3
安 全 学 習	地理歴史・公民	【世】自然環境と人類のかかわり	【地】自然環境	【現】現代に生きる人間の倫理	【地】地震と地殻変動	【地】火山活動と地震	【地】自然環境と防災と地理的考察	【地】大気の運動と気象	【物】エネルギーとそ の利用	【物】安全に配慮した住生活	【地】生活圏の諸課題と地理的考察	【地】日本の自然環境
	理 科				【地】地震と地殻変動	【地】火山活動と地震						
	保健体育・家庭		【家】子どもと高齢者とのかわわりと福祉			【家】食生活の設計と創造			【体】応急手当の実践（心肺蘇生法を含む）			
	実験・実習を伴う教科科目											
安 全	総合的な学習の時間	【工】学校が避難所になったときにできること ～習得した専門知識と防災知識を活用した地域貢献～ ・地域の災害の歴史を調査し、防災対策を知る	・地域の自然環境を知る ・地域の災害の歴史を調査し、防災対策を知る			【農】環境の調査・保全・創造						
	1 年 ホームルーム活動	◎府校に入學して ◎通学経路の避難施設の確認 ●防災体制の確立 ●通学時の安全 ●避難被害の防止	◎交通安全への参加 ◎地震と安全 ●部活動や休通時の安全 ●自転車への構造と点検整備	◎通学路上に潜む危険 ●風水害の安全対策 ●野外活動の安全	◎夏休みの生活と安全 ●暑熱の危険 ●修学旅行の安全・防災対策 ●体育大会の安全	◎事故災害時の応急手当 ●体育大会の安全 ●野外活動の安全	◎自然車加害事故の責任 ●火災の予防とストーブの取扱い ●冬休みの生活と安全	◎自転車加害事故の責任 ●火災の予防とストーブの取扱い ●冬休みの生活と安全	●積雪時の安全対策 ●危険の予測 ●地域の安全活動	●積雪時の安全対策 ●危険の予測 ●地域の安全活動	●危険の予測 ●地域の安全活動	◎春休みの生活と安全 ●今年度活動の評価とまとめ
	2 年 ホームルーム活動	◎2年生になって ◎通学経路の避難施設の確認 ●防災体制の確立 ●部活動と健康管理 ●通学時の安全 ●自転車被害の防止	◎高校生の心理や行動と事故の特徴 ◎地震と安全 ●部活動と健康管理 ●通学時の安全 ●自転車の安全な利用	●風水害の安全対策	◎夏休みの生活と安全 ●暑熱の危険 ●修学旅行の安全・防災対策 ●体育大会の安全	◎危険予測訓練	◎修学旅行の安全・防災対策 ●体育大会の安全	◎火災の予防とストーブの取扱い ●冬休みの生活と安全	●積雪時の安全対策 ●危険の予測 ●地域の安全活動	●積雪時の安全対策 ●危険の予測 ●地域の安全活動	●危険の予測 ●地域の安全活動	◎春休みの生活と安全 ●今年度活動の評価とまとめ
	3 年 ホームルーム活動	◎3年生になって ◎通学経路の避難施設の確認 ●防災体制の確立 ●通学時の安全 ●自転車被害の防止	◎地震と安全 ●部活動と健康管理 ●通学時の安全 ●自転車の安全な利用	●風水害の安全対策	◎夏休みの生活と安全 ●暑熱の危険 ●修学旅行の安全・防災対策 ●体育大会の安全	◎事故災害時の対応と応急手当	◎体育大会の安全 ●地域の安全活動	◎火災の予防とストーブの取扱い ●冬休みの生活と安全	●積雪時の安全対策 ●危険の予測 ●地域の安全活動	●積雪時の安全対策 ●危険の予測 ●地域の安全活動	●危険の予測 ●地域の安全活動	◎卒業に当たって ●今年度活動の評価とまとめ
教 育 指 導	主な学校行事	・入学式 ・始業式 ・祭の交通安全指導 ・定期健康診断 ・オリエンテーション	・教団法講習会 ・学校保健安全委員会 ・交通安全教室 ・3年生生徒指導集会 ・高校総体 ・保健体育大会 ・2年生生徒指導集会	・防災避難訓練「河川氾濫」 ・学校保健安全委員会 ・高校総体 ・保健体育大会 ・2年生生徒指導集会	・終業式 ・夏休みの諸注意 ・始業式 ・体育大会	・文化祭 ・文化祭実行委員会 ・修学旅行	・防災避難訓練「避難所開設」 ・修学旅行	・交通安全教室 ・校外巡視	・防災避難訓練「火災」 ・冬休みの諸注意 ・終業式	・始業式 ・学校保健委員会 ・1、2年生生徒指導集会	・防災避難訓練「積雪時」 ・学校保健委員会 ・1、2年生生徒指導集会	・卒業式 ・終業式 ・春休みの諸注意
	個別指導	・自転車、バイク通学許可 ・校門立番指導	・自転車、バイクの点検 ・健康診断結果の指導	・健康診断結果の指導	・校外指導 ・生徒指導全体集会 ・自転車、バイクの乗技指導 ・免許取得指導 ・校外巡視	・通訓指導先での安全・防災対策 ・自転車、バイクの点検 ・新規免許取得者指導 ・校外巡視	・受審先での安全・防災対策 ・校外巡視 ・校外巡視	・バイク、自動車免許取得の手続き ・校外巡視	・受審先での安全・防災対策 ・免許取得の指導 ・校外巡視	・受審先での安全・防災対策 ・免許取得の指導 ・校外巡視	・校外巡視 ・入社指導 ・入社指導	・校外巡視
	部 活 動	・新入部員オリエンテーション ・部活動年間指導計画作成	・用具の点検、整備	・部活動部長会	・救急法実技講習会 ・合宿、遠征の安全	・用具の点検、整備	・活動場所の安全点検	・用具の点検、整備	・部室の安全点検	・活動場所の安全点検	・応急手当実技講習	
	生徒会活動	・新入生オリエンテーション ・学校周辺の防災マップの作成（学校経営企画）	・壮行会 ・保健委員会	・保健委員会	・球技大会 ・文化祭	・文化祭 ・体育大会	・体育大会	・保健委員会	・球技大会	・ボランティア活動などの社会参加	・3年生を送る会	
安 全 管 理	対人管理	・通学状況調査 ・防災体制の確立 ・教団法講習会 ・安全計画の策定 ・下宿、アルバイト調査	・授業時の安全確認（体育実技、農業実習、理科実験、家庭科実習） ・環境整備美化作業 ・安全計画の策定 ・車に係る規則の徹底 ・事故調査と防止対策	・生徒引率の安全確認 ・防災避難訓練の徹底	・長期休業前生活指導 ・大掃除の安全確認	・防災対策の徹底 ・通学路の見直し ・文化祭の安全対策 ・授業時の安全管理点検	・防災避難訓練の徹底 ・修学旅行の安全・防災対策	・事故災害時の応急手当の徹底	・防災避難訓練の徹底 ・長期休業前生活指導 ・冬休みの健康管理	・順路の取扱い	・防災避難訓練の徹底 ・交通安全の徹底	・今年度の活動の評価と次年度の計画立案 ・長期休業前生活指導 ・本年度の事故発生まとめ
	対物管理	・学校環境の安全点検 ・防災設備の点検整備 ・自家用電気工作物保安点検	・学校環境の安全点検 ・整備（普通、特別教室、実験実習器具） ・プール掃除 ・通学路安全点検 ・理髪について	・学校環境の安全点検 ・整備（普通、特別教室、実験実習器具） ・プール掃除 ・通学路安全点検 ・消防器具の点検 ・避難知照の点検	・学校環境の安全点検 ・整備（校庭、学校全舎） ・消火器、消火栓、火災報知器の点検	・学校環境の安全点検 ・整備（普通、特別教室、実験実習器具） ・防災施設・設備の点検整備 ・通学路安全点検	・学校環境の安全点検 ・整備（体育館、武道場、部室、運動器具） ・修学旅行の安全・防災対策	・学校環境の安全点検 ・整備（校庭） ・修学旅行の安全・防災対策	・学校環境の安全点検 ・整備（普通、特別教室、実験実習器具） ・防災施設・設備の点検整備	・学校環境の安全点検 ・整備（体育館、武道場、部室、運動器具） ・火気器具の安全点検	・学校環境の安全点検 ・整備（施設、設備） ・火気器具の安全点検 ・生食用机、椅子の点検整備	・今年度の活動の評価と次年度の計画立案 ・校内事故等発生状況と安全に関する研修
	学校安全に関する組織活動（研修含む）	・集の交通安全 ・職員会議（危機管理体制） ・交通安全指導 ・交通避難訓練 ・教職員研修（安全点検、AED）	・県民防災の日（26日） ・PTA総会 ・安全委員会 ・学校（保健）安全委員会 ・教職員研修（熱中症の予防）	・保護者面談 ・PTA委員会 ・教職員研修（熱中症の予防）	・生徒指導協議会（地域・校外指導・危機箇所巡視） ・教職員研修（防犯） ・国民防災の日	・国民防災の日 ・教職員研修（自然災害） ・秋の交通安全運動	・中卒連絡会 ・学校（保健）安全委員会 ・計画期間による理科系品等の適正な管理点検 ・防災に関する研修（訓練時）	・交通安全指導 ・国民防災とボランティア委員会 ・PTA委員会 ・学校保健（安全）委員会	・交通安全指導 ・国民防災とボランティア委員会 ・PTA委員会 ・学校保健（安全）委員会	・交通安全指導 ・国民防災とボランティア委員会 ・PTA委員会 ・学校保健（安全）委員会	・交通安全指導 ・国民防災とボランティア委員会 ・PTA委員会 ・学校保健（安全）委員会	・今年度の活動の評価と次年度の計画立案 ・校内事故等発生状況と安全に関する研修

防災教育年間指導計画例（高校）

【防災教育で目指す生徒の姿】

- 自らの安全確保の他、友人や家族、地域の人々の安全への貢献の大切さについて一層理解を深めることができる。
- 安全で安心な社会づくりの理解を深め、地域の安全に関する活動や災害時のボランティア活動等に積極的に参加できる。

	4月～7月		8月～12月		1月～3月	
	学年・教科科目名・単元名等	予定 時数	学年・教科科目名・単元名等	予定 時数	学年・教科科目名・単元名等	予定 時数
教科・総合学習指導計画	【1年家庭】 子どもや高齢者とのかかわりと福祉	2	【1年家庭】 食生活の設計と創造	2	【1年家庭】 安全に配慮した住生活	2
	【2年世界史B】 自然環境と人類のかかわり	1	【1年地理A】 自然環境と防災	3	【1年地理A】 生活圏の諸課題と地理的考察	3
	【2年地理B】自然環境	5	【2年地学基礎】 火山活動と地震	2	【2年物理基礎】 エネルギーとその利用	2
	【3年現代社会】 現代に生きる人間の倫理	2	【2年保健】 応急手当の実践 (心肺蘇生法を含む)	2	【2年地学基礎】 日本の自然環境	2
	【3年地学】 地震と地殻変動	2	【3年地学】 大気の運動と気象	3	【全学年総合的な学習の時間】 ボランティア活動や社会奉仕 の精神を養う体験をとおし、 支援者としての視点をはぐく む活動	3
	【3年工業】 学校が避難所になったときにで きること～習得した専門知識と 防災知識を活用した地域貢献～	5	【3年農業】 環境の調査・保全・創造	3	【1年総合的な学習の時間】 生徒の創意を生かした自発 的・自治的な活動	2
	【1年総合的な学習の時間】 地域の自然環境を知る	2	【全学年総合的な学習の時間】 地域と連携した複合的避難訓 練に向けて	2		
	【2年総合的な学習の時間】 地域の災害の歴史を調査し、 防災対策を知る	2	【1年総合的な学習の時間】 地域の災害と復興を考える	2		
学級指導計画	指導内容等	予定 時数	指導内容等	予定 時数	指導内容等	予定 時数
	●通学時の安全（1年は○） ●通学経路の避難施設の確認 （1年は○） ○地震と安全 ●風水害の安全対策 ○夏休みの生活と安全 ●落雷の危険	1 1 1 1 1 1	○事故災害時の応急手当 （1・3年） ○危険予測訓練（2年） ○修学旅行の安全・防災対策 （2年） ●ストーブの取扱い ○火災の予防 ●冬休みの生活と安全	1 1 1 1 1 1 1	●積雪時の安全対策 ●危険の予測（1年） ●春休みの生活と安全 （1・2年）	1 1 1
全体指導計画	指導内容等	予定 時数	指導内容等	予定 時数	指導内容等	予定 時数
	救急法講習会 防災避難訓練「河川氾濫」 夏休みの諸注意	1 1 1	防災避難訓練「避難所開設」 修学旅行（2年） 防災避難訓練「火災」 冬休みの諸注意	1 1 1 1	防災避難訓練「積雪時」 春休みの諸注意	1 1

◎ 1単位時間程度の指導

● 短い時間の指導（SHRなど）

	4月～7月	8月～12月	1月～3月
	学年・教科科目名・単元名等	学年・教科科目名・単元名等	学年・教科科目名・単元名等
避難訓練実施計画	【想定災害】 地震・津波・土砂災害・ <u>河川氾濫</u> 雪害・火災 その他（ ）	【想定災害】 <u>地震</u> ・津波・土砂災害・河川氾濫 雪害・ <u>火災</u> その他（ ）	【想定災害】 <u>地震</u> ・津波・土砂災害・河川氾濫 <u>雪害</u> ・火災 その他（ ）
	【避難場所】 一次避難（グラウンド・裏山 ） 二次避難（体育館 ）	【避難場所】 一次避難（グラウンド ） 二次避難（体育館 ）	【避難場所】 一次避難（体育館 ） 二次避難（ ）
	【地域との連携】 ○ハザードマップの活用についての 講話を自治体に依頼。	【地域との連携】 ○避難者として地域住民に参加を要 請。避難所物資の協力を自治体に 依頼。 ○消防署員による指導。	【地域との連携】 ○避難所マップやハザードマップを 事後指導用に提供してもらうよう 自治体に依頼。
	予定回数 1回	予定回数 2回	予定回数 1回

高等学校展開例 1

防災避難訓練（避難所設置）

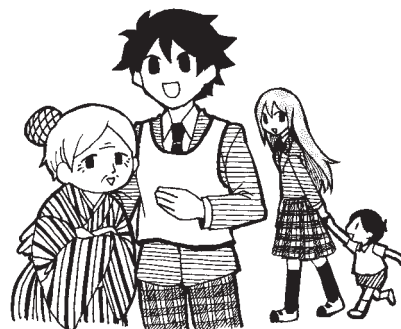
1 教科名等

特別活動 学校行事

【学校行事 内容 (3) 健康安全・体育的行事】

2 ねらい

地震等災害により避難所が設置されることを想定し、地域と学校が連携して的確に実施できるよう訓練するとともに、生徒の防災意識の高揚を図る。



3 指導計画

4 時間 展開例 2～3 / 4

- (1) 避難行動訓練（地震＋火災等）について（1 時間）
- (2) 避難所設置訓練について（2 時間）
- (3) 避難行動訓練や避難所設置訓練についての振り返り（1 時間）

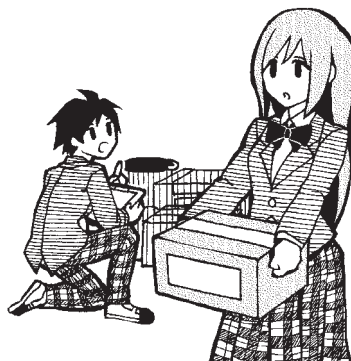
4 展 開

学習内容・活動	教職員の支援等	資 料
1 避難所設置訓練を通知する。 2 各班に分かれ、訓練を行う。 ・総務情報班 - 外部情報の収集、整理 - 校内案内板の作成 - 施設名等の張り紙の作成 - 被災状況の掲示 ・施設設営班 - 避難所（体育館等）の設営 - テントの設置 - 発電機の搬入 - 石油ストーブの設置（冬期） ・避難者対応班 - 避難者受付所の設置 - 避難者受付開始 - 炊き出しの配給	○校内放送で避難所設置訓練を周知する。 ○自治体の災害対策本部へ避難所開設を連絡する。 ○避難者へ情報を提供する。 ○避難所のレイアウトを作成する。 ○燃料の保有量を確認する。 ○避難者を誘導する。 ○避難者名簿用紙を配付、回収し整理させる。	・破損箇所等の有無の確認（確認箇所にはテープ等を貼る） ・校内（舎）平面図

学 習 内 容 ・ 活 動	教 職 員 の 支 援 等	資 料
・ ボランティア班 ボランティア受付所の設置 ボランティア受付開始 物資班の手伝い ・ 物資班 備蓄物資の管理、配給 支援物資の受入、仕分け ・ 給水給食班 炊き出し準備、実施 調理・炊飯袋の煮沸 飲料水の確保 ・ 救護衛生班 仮設トイレの設置 仮設ゴミ置場の設置 救護所の設置	○ ボランティア名簿用紙を配付、回収し整理させる。 ○ 避難者全員に提供できることが確認されるまで配給しない。 ○ 調理室の安全を確認する。 ○ 給水タンクを準備させる。 ○ トイレ用水を確保させる。 ○ 保健室の安全を確認する。	
3 各班において検証を行う。	○ 改善点をまとめさせる。	

5 評 価

- (1) 自らの安全確保のほか、地域の人々の安全への貢献の大切さについて理解を深めることができたか。
- (2) 災害時に自分にできることを考え、ボランティア活動等に積極的に参加できたか。



高等学校展開例 2

積雪時の防災避難訓練（多様な災害・時期・時間帯を想定する）

1 教科名等

特別活動 学校行事

【学校行事 内容 (3) 健康安全・体育的行事】

2 ね ら い

- (1) 積雪期で屋外（校庭やグラウンド）への一斉避難ができない場合の避難経路を確認させ、適切な避難行動をとれるようにする。
- (2) 多様な災害・時期・時間帯などの場面を想定し、それぞれに対応した自分の避難行動についての留意点を考えさせる。
- (3) 災害時に自分たちにできる行動を考えさせ、防災意識の向上を図る。

3 指導計画

3 時間 展開例 3 / 3

- (1) 積雪期の避難行動の留意点 (1 時間・SHRでも可)
- (2) 積雪期の避難行動訓練 (1 時間)
- (3) 多様な場面を想定した避難行動を考える (1 時間)

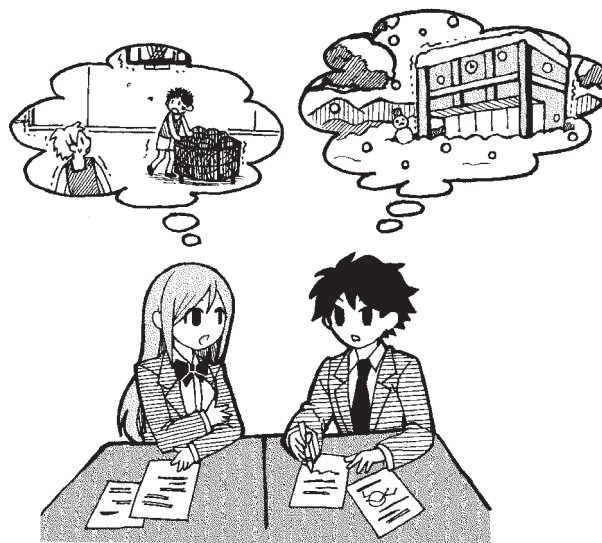
4 展 開

学 習 内 容 ・ 活 動	教 職 員 の 支 援 等	資 料
1 避難行動訓練の反省 ・ 通常の屋外への避難行動と積雪期の行動との違いについて意見を発表する。 ・ 自分たちの避難経路に危険箇所がなかったかを確認する。	○非常口として積雪時には使えない出入口などを確認させる。	校内平面図
2 多様な場面を想定した避難行動の考察 ・ 通学手段が同じまたは自宅が近い生徒同士で班を編成し、各班ごとに考察する。 ・ 登下校時の避難行動について、危険箇所や避難場所について話し合う。 ・ 自宅にいるときの避難行動や防災用品の備えについても意見を出し合う。	○自由に意見を記入できるワークシートを準備しておく。 ○地震・豪雪・土砂崩れなどさまざまな災害を想定させ、通学路の危険箇所を意識させる。	ワークシート 各自治体作成の避難所マップやハザードマップ

学 習 内 容 ・ 活 動	教 職 員 の 支 援 等	資 料
・学校での時間帯別の避難行動について、各班ごとに考察する。 「朝SHR前」「休み時間のトイレ」 「体育の授業中」「調理実習中」 「昼休みの廊下」「部活動中」など 3 考察した意見の共有 ・各班で話し合った内容を発表する。 ・他の意見を聞いて参考にできることを取り入れ、災害時にすべき自分の行動についてまとめる。	○校内の状況をできるだけ具体的に想定させ、全体に参考となる行動をまとめさせるようにする。 ○通学時や自宅での避難行動については、自分たちができる周囲への支援や貢献活動についても考えさせる。	

5 評 価

- (1) 積雪期の避難行動について、通常の屋外への避難との違いや留意点を意識しながら、安全に行動できたか。
- (2) 多様な災害・時期・時間帯などの場面を想定した避難行動について、主体的に考えることができたか。



平成△年度学校安全計画例（特別支援学校・知的・高等部）

〇〇学校 高等部

項目	月	4	5	6	7・8	9	10	11	12	1	2	3	
安 全 学 習	月の重点	通学路の安全を確認しよう	交通安全に気をつけて通学しよう	プールでの事故に気をつけよう	夏休みを安全に過ごそう	交通安全について確認しよう	体育祭を安全に成功させよう	文化祭を安全に成功させよう	冬休みを安全に過ごそう	暖房時の安全を確認しよう	降雪時の事故防止について確認しよう	春休みを安全に過ごそう	
		← 体育施設・用具の安全な使用 →											
	教 育	← 各競技のルールの理解と安全、集団行動 →											
		保健体育	運動会練習や当日の安全		夏季の健康管理（水分補給）						← 冬季の健康管理と安全 →		
			プールにおける安全、救急法練習、心肺蘇生法								スキー教室、スケート教室における安全（コースの理解、スピード、接触）		
			体育大会練習や当日の安全										
	学 習	理 科	← 実験器具の安全な使い方、試薬の安全な使い方 →										
		美 術	← 道具（はさみ、カッター、小刀、彫刻刀など）の安全な使い方、管理 →										
		家 庭	← 調理器具や道具の安全な使い方、安全な調理方法、非常食について →										
		職 業	← 道具の安全な使い方、管理、安全な作業遂行 →										
教 育 指 導	生活単元学習	地域探索（危険箇所の把握含む）	宿泊学習での安全 →避難場所・危険回避 避・集団行動の約束～	夏休みの過ごし方 （海水浴、水路など）	天気予報 （台風について）				冬休みの過ごし方 （屋根の雪、吹雪、 雪崩など）	防災とボランティア活動	除雪ボランティア		
	日常生活の指導	← 日常生活の中で防災教育につながる力を高める（放送を聞く、集団で行動する、安全な場所を選ぶ、ヘルプの依頼をする、指示への注目、指示の理解） →											
	総合的な学習の時間	← 体系的な活動を通して意識を高める →											
	生 活 安 全	・情緒の安定 ・日常生活における安全	・集団行動の約束 ・友達との接し方	・一人では行ってはいけない場所、人通りの少ない場所の確認	・夏休みの過ごし方	・自分の身を守る登下校や交通機関の安全な利用方法	・不審者から自分を守る	・「子ども110番の家」の場所確認	・冬休みの過ごし方	・犯罪から身を守る携帯電話の使い方	・暖房器具の近くの安全な過ごし方	春休みの過ごし方	
	交 通 安 全	・登下校の安全 ・安全な歩行	・交通安全指導（警察署）	・雨の日の交通安全（傘のさし方）	・交通機関の利用方法	・横断歩道のわたり方 ・自転車の乗り方	・交通安全指導（警察署）	・交通機関の利用とマナー	・自転車に関する基本的な交通法規を知る	・交差点の危険について	・雪の日の交通安全	・踏切事故等鉄道での安全	
	災 害 安 全	避難経路の確認 防災グッズの確認 自転車の整備・点検		情報機器（携帯電話、スマートフォン）の使い方 自転車の安全な乗り方 大雨・台風に備えて		登下校時の安全 雪道の安全 冬期間の避難の仕方							
	ホームルーム活動	← 避難訓練や安全指導に関する事前・事後学習、県民防災の日など社会的な事象を踏まえた学習、居住地での避難について →											
	学 校 行 事 等	避難訓練（火災）	避難訓練（地震・火災）	地域と連携した寄宿舍 避難訓練 現場実習	避難訓練（地震、津波）	総合防災訓練	体育祭		現場実習	校外学習	避難訓練（地震・火災）		
	対 人 管 理	・生徒の状況把握 ・通学路の確認 ・避難経路確認 ・次月の避難訓練確認 ・組と責任者の表示	・緊急体制の確認 ・健康観察 ・避難経路確認 ・次月の避難訓練確認	・水泳指導健康安全管理 ・健康観察 ・心臓蘇生法の確認 ・心臓蘇生法の確認 ・次月の避難訓練確認	・水泳指導健康安全管理 ・健康観察 ・A E Dの使い方確認 ・心臓蘇生法の確認 ・夏季休業中の安全 ・次月の避難訓練確認	・健康観察 ・健康観察 ・健康観察	・健康観察		・健康観察 ・健康観察 ・次月の避難訓練確認	・健康観察 ・健康観察 ・冬季休業中の安全	・健康観察 ・避難経路確認 ・冬季休業中の安全	・健康観察 ・春季休業中の安全	
	対 物 管 理	・防災計画届け出 ・通学路確認 ・安全対策マニュアル	・飲料水点検 ・防災設備点検 ・避難経路点検		・防災設備点検 ・水質検査	・暖房器具の設備点検	・防災設備点検		・室内有害物物質検査 ・避難経路点検	・照度検査	避難経路点検		
学校安全に関する組織活動（研修含む）	各教室、特別教室等の防火管理担当者による毎日の消防設備点検と閉鎖障害チェック、校内巡回指導 学校安全衛生委員会（年3回）、P T A・地域との連携、登下校時刻の通学路交通規則 ・春の交通安全運動 ・メール一斉送信訓練 ・職員防災研修 ・消火訓練 ・秋の交通安全運動 ・心のケアに関する研修 ・安全点検 ・不審者対応訓練 ・防災に関する研修 ・安全点検 ・校内事故等発生状況と安全措置に関する研修												

防災教育年間指導計画例（特別支援学校・知的・高等部）

【防災教育で目指す生徒の姿】

○児童生徒等の障害の状態、発達の段階や特性等及び地域の実態等に応じて、自ら危険な場所や状況を予測、回避したり、必要な場合には援助を求めたりすることができる。

自立活動

○年間を通して、日常生活の中で防災につながる内容を意識して取り組む。
・放送を聞く、集団で移動する、危険回避する、安全な場所を選ぶ、援助を依頼する、指示へ注目する、指示理解する等。

教科等指導計画	4月～7月		予定 時数	実施 時数	8月～12月		予定 時数	実施 時数	1月～3月		予定 時数	実施 時数
	教科名・単元名・指導内容等				教科名・単元名・指導内容等				教科名・単元名・指導内容等			
	1年	地域探索 (危険箇所の把握)	6		マップにまとめよう 消防学校体験	10			冬の暮らし (除雪、交通安全)	6		
2年	現場実習における災害時の対応	6		自然災害に備えよう 現場実習における災害時の対応	10			冬の暮らし (除雪、交通安全)	6			
3年	防災センターの利用（修学旅行） 現場実習における災害時の対応	10		現場実習における災害時の対応 携帯電話を使用した避難の連絡、助けの求め方	10			卒業後の生活における災害対応	6			
年間を通して、安全な道具の使い方、管理、作業遂行について、職業科で取り扱う												
学級指導計画	1年	夏休みの過ごし方 家庭での避難場所の確認 県民防災の日（防災意識の向上） 登下校時の安全	4		冬休みの過ごし方 冬場の避難（防寒対策） 登下校時の安全	4			非常食体験 冬の交通安全 起震車体験 防災グッズの確認	3		
	2年	夏休みの過ごし方 家庭での避難場所の確認 県民防災の日（防災意識の向上） 登下校時の安全	4		冬休みの過ごし方 冬場の避難（防寒対策） 登下校時の安全と連絡方法	4			非常食体験 起震車体験 防災グッズの確認	3		
	3年	夏休みの過ごし方 家庭での避難場所の確認 県民防災の日（防災意識の向上） 登下校時の安全と連絡方法	4		冬休みの過ごし方 冬場の避難（防寒対策） 登下校の安全と連絡方法	4			非常食体験 起震車体験 防災グッズの確認	3		
避難訓練実施計画	【想定災害】 地震・津波・土砂災害・河川氾濫 雪害・火災 その他（ ） 【避難場所】 一次避難（ グラウンド ） 二次避難（ 近隣公園 ） 【地域との連携】 ○二次避難における住民と連携した避難誘導				【想定災害】 地震・津波・土砂災害・河川氾濫 雪害・火災 その他（ ） 【避難場所】 一次避難（ 体育館 ） 二次避難（ 校舎2F ） 【地域との連携】 ○地域ボランティアとの連絡網による情報交換				【想定災害】 地震・津波・土砂災害・河川氾濫 雪害・火災 その他（ ） 【避難場所】 一次避難（ 校舎2F ） 二次避難（ 体育館 ） 【地域との連携】 ○地域合同防災訓練			
	予定回数 2回				予定回数 1回				予定回数 2回			

その他学校行事等における防災教育実施計画

・寄宿舎における避難訓練時には、連絡網で地域ボランティアに協力を要請し、二次避難の誘導を依頼する内容を取り入れる。

特別支援学校展開例 1（知的・高等部）

日々の学校生活の中で取り組む防災教育

1 教科名等

日常生活の指導 朝の会

2 ね ら い

- (1) 避難指示や集団での避難を想定し、話し手に注目したり、静かに指示を聞いたりする。
- (2) 気象状況から、服装や危険箇所について、気を付けるべきことを知ったり判断したりする。
- (3) 自らの体調を他者に正確に伝えたり、活動の当番を依頼したりする。

3 指導計画

- ・年間を通して、上記のねらいが達成できるように指導を行う。

時 期	時期ごとに指導に主として取り上げたいテーマ（例）
春期	・交通安全 ・休息などの体調管理
夏期～秋期（本時）	・服装（暑さ対策） ・汗の始末 ・水分補給 ・河川氾濫 ・台風
冬期	・防寒 ・除雪 ・積雪時の道路交通安全 ・雪害

※定期的に臨時校内放送を行い、放送への注意行動を指導する機会を設定する。

4 展 開

学習内容・活動	教職員の支援等	防災教育に関わる指導の観点	資 料
・日直は当番で行う。また、各学習活動は時期毎に係活動の担当を決めて行う。 ・係り活動の依頼など、適切な関わり方を場面をとらえて指導する。			
1 挨拶をする。	・日直に対しての注目ができるよう、姿勢や視線を確認し、注目できるまで進行を待つよう日直に伝える。	・指示への注目や、集団で行動をすること。	
2 今日の日付と天気をもとにして、必要な対策をクイズ形式で答える。	・水分補給や服装について気象状況に応じた留意点を係と事前に確認しておく。 ・生徒自身がとるべき行動を判断できるよう、絵カードや写真を活用してクイズを進行する。	・気象状況に合わせた対応の判断をすること。	絵カード（例） ・水分補給 ・厚着 ・薄着 ・半袖など

学習内容・活動	教職員の支援等	防災教育に関わる指導の観点	資 料
3 健康観察をする。	自分の体調を正確に伝えることができるよう、実態に応じて選択カードを提示したり、体調を正確に伝えることができた生徒を即時に称賛したりする。	自らの体調を把握し、正確に伝えること。	健康観察表 健康状態カード等
4 今日の予定を伝える。	- 一日の見通しをもてるよう、日程表を工夫する。 - とるべき行動を判断したり、日程に合わせて行動できるよう、持ち物や集合時間、場所について、事前に確認し、日程表に記入するように促す。	- 指示どおりに行動すること。 - 状況に合わせて行動すること。	
5 今日のニュースを紹介する。	- 事故や災害について優先的に取り上げるように事前に生徒と確認する。 - 聞き手に伝わる話し方について、ニュースの内容を整理しておく。	事故の概要や危険箇所について知ること。	今日のニュース発表用ワークシート
6 先生からの連絡を聞く。	- 教師の話に注目できるよう、全員の視線が合うまで待つ。 - 今日のニュースの話題が防災に関する内容であるときは、内容を掘り下げ、身を守るためにとるべき行動について発問して考えを引き出す。 - 危険回避につながる意見が出た場合は取り上げ、周知する。	- 話し手へ注目すること。 - 危険な状況や場所を予測したり、回避したりするために判断すること。	
7 挨拶をする。	日直に対しての注目ができるよう、姿勢や視線を確認し、注目できるまで進行を待つよう日直に伝える。	指示への注目や、集団での行動をすること。	

5 評 価

- (1) 話し手に注目して話に耳を傾けたり、自らの考えや意思、体調を適切に伝えることができたか。
- (2) 朝の会の前に十分な準備活動を行い、生徒同士がやりとりをしながら危険回避や状況判断、助けを求めることについて考える機会を設定できたか。

6 そ の 他

- 意識的に注視をする場面を朝の会の活動に設定し、話し手を見て話を聞くように継続して指導する。
- 校内放送を利用して放送を聞くことや、指示があるまで静かに待つことを指導する。

特別支援学校展開例 2（知的・全校行事）

地震・津波を想定した総合防災訓練

1 教科名等

特別活動 学校行事

2 ね ら い

- (1) 地震後に津波がくることを想定し、指示に従い速やかにかつ安全に避難場所へ避難する。
- (2) 保護者が来るまで、落ち着いて行動したり避難場所で安全に過ごしたりする。
- (3) 起震車体験をしたり、非常食を食べたりする体験を通して、災害時の対処に慣れる。

3 指導計画 6時間 （展開例 2～5／6）

- (1) 事前学習：津波被害や避難経路、訓練の日程について （1時間）
- (2) 総合防災訓練 （4時間 本時）
- (3) 事後学習：避難所での過ごし方、自宅付近の避難所について （1時間）

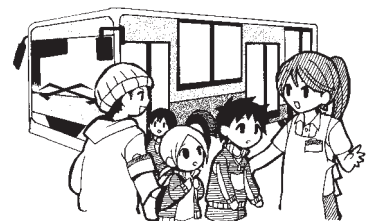
4 展 開

学習活動 () は防災対策本部の対応	教職員の支援等	資 料
1 緊急放送を聞く。	・放送に注意して聞くように促す。	・校内放送
2 放送指示に従い、安全を確保する。	・児童生徒の実態に応じて、安全確保を行う。	
3 揺れが収まったら、放送指示に従い、津波を想定した避難を開始する。	・安全かつ速やかに避難するよう指示をする。	・防災ヘルメット
4 避難場所に集合し、不明者の捜索が完了するまで待つ。 (防災対策本部の設置をする。) (地域町内会に協力要請をする。)	・人員点呼を行う。 ・落ち着いて待つことができるように言葉を掛ける。 ・津波を想定し、家庭連絡や避難所対応を検討することを確認する。	・点呼表 ・救護グッズ ・トランシーバー ・防災対策本部 ・ラジオ
5 津波が退いたことの緊急放送を聞く。	・放送に注意して聞くように促す。	・校内放送
6 消防署員からの講評及び、連絡を聞く。 (緊急連絡網で引き渡しの家庭連絡をする。)	・連絡は校内放送を使用し、以下の項目を児童生徒、教職員に伝える。 ①引き渡しが決めたこと ②学校が福祉避難所となること ③教職員は模擬的に避難所運営にあたること ④近隣町内会から協力が来ること	

学習活動 () は防災対策本部の対応	教職員の支援等	資 料
7 起震車体験と非常食の飲食体験をする。 (地域住民が到着後、協力内容について打ち合わせをする。)	- 避難場所での児童生徒の掌握や、非常食の配布を地域住民とともに行う。 - 防災対策本部は、集合場所を予め決めておくことや災害時の役割分担について地域住民と確認したりする。 - 非常食は学校備蓄の物を古い順に使用する。	- 起震車 - 非常食 (カンパン、水)
○保護者への引き渡しまでの体験活動には、このような例もある。学部ごとや縦割り班編制での実施など、学校の実状に合わせて活動を工夫する。 炊き出し体験 - レトルト食品の温め - おにぎりづくり(炊飯) - 石や一斗缶を利用したかまど作り - お茶等、温かい飲み物の準備 避難所体験 - 避難所の仕切り作り - 仮設トイレ設置作業 - リレー方式での備品や暖房器具準備作業 - スクールバス中での避難 (余震のために屋内を危険と判断し、屋外で暖をとるため) 消火活動体験 - 煙中体験 - 消火器による消火体験 - バケツリレーでの消火活動体験		
8 保護者への引き渡しで帰宅を始める。	- 引き続き避難場所での児童生徒掌握、避難場所から引き渡し受付までの誘導、引き渡し名簿の記入を地域住民の協力を得て行う。 - 引き渡し状況は放送で報告する。	- 児童生徒名簿 - 校内放送
9 全員の引き渡しが終わる。 (生徒下校後、地域住民は解散する。) (児童生徒の下校確認後、放送で訓練の終了を伝え、教職員のまとめの会を行う。)	- 帰宅後の安着電話をかけるように伝える。 - 防災対策本部は災害時に必要となる運営業務について教職員と確認する。	- 児童生徒名簿 - 校内放送

5 評 価

- (1) 指示に従い、避難場面や避難場所で落ち着いて行動できたか。
- (2) 地震や津波を想定した避難対応や地域連携は適切かつ円滑に行うことができたか。



6 そ の 他

- ・地域住民や保護者に訓練の意図を十分に説明し、共通の理解をもって訓練に臨む。
- ・防災対策本部は、災害時に必要となる動きについて、地域住民や教職員と確認する。
- ・児童生徒の引き渡しは混乱がないよう、名簿を用いたり、受付を設置したりして確実にを行う。
- ・事前に「地震体験車」の利用について消防署に申し込む。
- ・冬期などの訓練計画も検討する。



被災地の特別支援学校関係者の声（防災教育推進事業 被災地視察より）

1 緊急メールサーバー

緊急時の連絡方法として、緊急メールの登録を保護者と進めている学校も多いのではないのでしょうか。東日本大震災で被災した学校でも、このように緊急メールの登録を震災前に行っていたところがあったようです。しかし、震災が起こった後、この緊急メールは機能しなかったようです。理由は、緊急メールサーバーが学校と同地区にあり、津波でサーバーが流されたためだといわれています。特別支援学校では、登下校は保護者送迎の場合も多く、緊急連絡手段の確保は大切です。いざというときのため、県外に複数台設置しているサーバー業者を採択できると安心です。

2 福祉避難所としての学校と備蓄

いざというとき、児童生徒がまだ学校にいる場合は避難所指定がされていなくても、一時的に避難所としての機能を持たせざるを得ません。ある程度の備蓄は必要になるかと思います。また、福祉避難所として運営が必要になった場合、特別支援学校の児童生徒にとってあると良いものがたくさん出てきたようです。まず、児童生徒が使用する紙おむつです。児童生徒が使用するサイズはもともと市場の流通量が少なく、入手困難になりがちなようです。また、イヤーマフ、カームダウン用のテント、医療的ケア用備品等も備蓄しておくと言った声も聞こえてきました。障害特性に配慮した備蓄も、福祉避難所には求められます。

3 スクールバスの運行中の震災

東日本大震災が起こったとき、下校後だった学校もあるようです。特別支援学校ではスクールバスでの通学生も多く、スクールバス運行中に震災に遭ったケースもありました。無線を積んでいれば良いものの、携帯電話はつながりにくくなり、連絡はほぼ取れません。もしも震災に遭ったときのために、バス経路中の避難所をあらかじめ把握しておき、バス運行中であれば最寄りの避難所に入り、連絡を待つという取り決めをしておくことが大切です。

4 寄宿舍で夜間に被災したら

震災は夜に起きる可能性もあります。寄宿舍で震災に遭った場合、夜間の避難が必要になります。夜間の寄宿舍は支援者の手が足りなくなります。もしもの被災に備え、地域の方との連絡網を整えたり、一緒に避難訓練をするなど、普段から地域との協力体制を築き上げておくことが大切です。

